
終わることのない世界の中で

蒲原

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わることのない世界の中で

【Nコード】

N1194I

【作者名】

蒲原

【あらすじ】

世の中には、大人によって仕組まれた殺人ゲームが存在していた。それに巻き込まれ、運命を狂わされた少年は、やがて一人の少女と巡り会う。バトルロワイヤルを題材にしていますが、戦闘描写などは描かれていません。会話のみです、それでもよろしければ読んでください。

あれから、俺達はどれだけの年月を歩いてきたのだろう。

終わることのない戦争。

あの国と称され、中心となっているアメリカの相次ぐ空爆…。

五年前まで、俺は大阪府のある学校で平穏にくらしていたが、運悪くこの国が定めだ法案、バトルロワイヤルにクラスが選ばれ、帰る家も、

今までの平穏も、
多くの仲間も失った。

優勝し、戻ってきた俺を迎えたのは憎しみや哀れみを帯びた目と、抵抗したがために殺された家族の死という現実、ただそれだけだった。

当然、そこに居場所なんてなくて……宛もなくこの世をさ迷った。

そして……

『……！』

俺は、ふと目を覚まし体を起こした。

握りしめていた毛布に、額から流れた冷や汗の雫が染み込んでいく。
嫌な悪夢を見たせいか、服が汗でグッシヨリと濡れていた。

不規則に荒い息を整え、ふと隣を見る。

『…よかった。夢で』

傍らには、スヤスヤと寝息をたてて眠る一人の少女の姿があった。

さ迷う最中で出会った俺と同じ境遇、そして俺の最愛の女性……死んでも護りたいと、心から思える人。

『薫……』

そつと、彼女の名を呼んだ。

『傍にいてくれて、ありがとう』

彼女に出会わなければ、俺は立ち直れなかった。この国のシステムそのものを壊そうという概念そのものすら生まれなかっただろう。

『……ん……』

暫くして、ふと彼女が目を覚ました。寝ぼけ眼で俺をとらえると柔らかな笑みを見せて体を起こし、汗をかいている俺を見て

『優斗君、凄い汗……どうしたの？』

不安気に目が揺れる……無理もない、近くに医者がいるような設備はないのだから。

『いや、何でもない。…少し、悪夢を見ただけだ』

額の汗をぬぐいながら、安心させようと言葉を選んだ。

『……忘れられないよね、あの地獄は』

ポツリ、彼女が呟いた。不安気だった目は、次第に悲しみを帯びていく。

『……きっと、死ぬまで忘れられないと思う。うつん、忘れちゃいけないのよ。それこそ、本当に皆を殺すことになるから』

『……そうだな、忘れちゃいけないんだ』

——昔、誰かがこんなことを言っていた。
人は、誰かが覚えていてくれる間は本当に死んだ事にはならないのだと。思いでの中で生きている……陳腐な言葉だが、俺達にとって
は救いの言葉だった。

暫く、長い沈黙が続く……

『……ねえ』

沈黙を破ったのは彼女の方だった。

『私達、これから何処へ行くんだろうね……』

『さあな……行く宛なんて俺達にはない……せめて、反政府組織に
でも巡り会えればいいんだが……』

仲間が足りない……

仲間が欲しい……

共に戦い、

共に笑い、

泣いて……怒って……居場所をくれる仲間が。

『そうだね……』

声が震えている、泣いているのだろうか…？

『でも、ただひとつ言えるとすれば…俺は薫が好きだと言ったことと、死ぬその日まで護り続けるって事だけだ』

『…え？』

彼女に、好きだと伝えるのは今が初めてだった。困惑したような声をだし、視界をさ迷わせる。

『薫に出会わなければ、俺は前には進めなかった。薫がいたからこそ、今日まで諦めずにいられたんだ』

『そう、なんだ……』

どう返事を返したらいいのかわからない、そんな感じの口調だった。

『……もし、国を変えられたら、その時……改めてプロポーズする。だから、返事はその時にしてくれる？今じゃなくて』

そう、今の俺達にはやるべきことがある……恋なんかにつつつを抜かしている場合ではないのだ。

『……うん、わかった』

俺の意を組んでくれたのか、笑みを見せて彼女は頷いた。

そんな俺たちを、丁度世が明けて差し込んできた光が照らし出す。

彼女が、小さくあくびをした。

『もう少し寝て、それから出発しようか？』

『うん、そうだね』

暫くして、俺はまた薫と一緒に歩き始めた。

バトルロワイヤル法案を、消滅させられるかどうかなんて、俺達には分からない。

だけど、せめて少しでも近づけるように、一歩一歩歩き続けようと思う。この終わることのない世界の中から、俺達の心の闇を消しさるために……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1194i/>

終わることのない世界の中で

2010年10月9日19時42分発行